

# 2024 年度 各教科の 学習と評価 (シバス)

シバスとは、教師が生徒及び保護者に配布する授業計画のことです。各教科の目標、学習内容や評価の観点、項目、方法等が含まれています。



## 三芳町立三芳中学校

# 国語科

## 年間指導計画

### 第一学年

1学期	2学期	3学期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・野原はうたう</li> <li>・シンシュン</li> <li>・漢字の組み立てと部首</li> <li>・ダイコンは大きな根？</li> <li>・ちょっと立ち止まって</li> <li>・話の構成を工夫しよう</li> <li>・硬筆</li> <li>・指示する語句と接続する語句</li> <li>・詩の世界</li> <li>・比喩で広がる言葉の世界</li> <li>・言葉を集めよう</li> <li>・読書を楽しむ</li> <li>・本の中の中学生</li> <li>・読書案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人になれなかった弟たちに</li> <li>・星の花が降るころに</li> <li>・言葉をもつ鳥、シジュウカラ</li> <li>・根拠を示して説明しよう</li> <li>・話題や展開を捉えて話し合おう</li> <li>・いろは歌</li> <li>・月に思う</li> <li>・蓬萊の玉の枝</li> <li>・今に生きる言葉</li> <li>・不便の価値を見つめ直す</li> <li>・君たちはどう生きるか</li> <li>・たのしい制約</li> <li>・書き初め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年の日の思い出</li> <li>・随筆二編</li> <li>・空</li> <li>・えんぼう</li> <li>・さまざまな表現技法</li> <li>・構成や描写を工夫して書こう</li> <li>・一年間の学びを振り返ろう</li> <li>・さくらのはなびら</li> </ul>

### 第二学年

1学期	2学期	3学期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見えないだけ</li> <li>・アイスプラネット</li> <li>・枕草子</li> <li>・熟語の構成</li> <li>・クマゼミ増加の原因を探る</li> <li>・硬筆</li> <li>・メディアの特徴を生かして情報を集めよう</li> <li>・短歌に親しむ</li> <li>・短歌を味わう</li> <li>・言葉の力</li> <li>・類義語・対義語・多義語</li> <li>・読書案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盆土産</li> <li>・字のない葉書</li> <li>・敬語</li> <li>・同じ訓同じ音をもつ漢字</li> <li>・モアイは語る</li> <li>・月夜の浜辺</li> <li>・平家物語・扇の的</li> <li>・漢詩の風景</li> <li>・君は「最後の晩餐」を知っているか</li> <li>・走る走らない走ろうよ</li> <li>・書き初め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走れメロス</li> <li>・一字違いで大違い</li> <li>・木</li> <li>・話し言葉と書き言葉</li> <li>・送り仮名</li> <li>・国語の学びを振り返ろう</li> </ul>

### 第三学年

1学期	2学期	3学期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界は美しいと</li> <li>・握手</li> <li>・学んで時にこれを習ふ</li> <li>・熟語の読み方</li> <li>・作られた「物語」を超えて</li> <li>・すいかは幾つ必要？</li> <li>・硬筆</li> <li>・俳句の可能性</li> <li>・俳句を味わう</li> <li>・和語・漢語・外来語</li> <li>・文法への扉</li> <li>・読書案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・故郷</li> <li>・慣用句・ことわざ・故事成語</li> <li>・漢字の造語力</li> <li>・初恋</li> <li>・古今和歌集(仮名序)</li> <li>・君待つと(万葉・古今・新古今)</li> <li>・夏草「おくの細道」から</li> <li>・古典を心の中心に</li> <li>・書き初め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰かの代わりに</li> <li>・漢字のまとめ</li> <li>・エルサルバドルの少女ヘース</li> <li>・温かいスープ</li> <li>・わたしを束ねないで</li> <li>・3年間の歩みを振り返ろう</li> </ul>

## 2 国語を学習するにあたって

教科書に沿って学習しますが、前もって意味調べなどの予習をしたり、漢字練習やノートを見直したり、課題プリントなどの復習を心がけて下さい。授業内では課題へ真剣に取り組み、読み・書き・話す・聞く能力をしっかりと高めるよう努力してください。また、国語便覧などの資料を活用して、実社会で使われている伝統的な言語文化などを幅広く学習して下さい。

## 3 評価・評定の方法について

### (1) 評価の観点と主な評価材料について

#### 観点1 知識及び技能

- ①定期テスト ②小テスト ③授業での課題 ④硬筆、書初め等
- ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているか。
  - ・我が国の言語文化に親しんだり理解したりしているか。

#### 観点2 思考力、判断力、表現力等

- ①定期テスト ②授業での課題(ノート、スピーチ、作文等) ③聞くテスト
- ・筋道を立てて論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養っているか。
  - ・人や社会との関わりの中で伝えあう力を高め自分の考えや思いを深めることができているか。

#### 観点3 学びに向かう人間性等

- ①授業態度(発言や発表) ②提出物(作品やノートやプリント) ③テスト等
- ・言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうという態度が身についているか。
  - ・授業に真剣に向き合い、自ら考えたり調べたりして答えを探究しようとする態度が身についているか。

### (2) 評定について

#### A・B・Cの達成度基準(目安として)

Ⓐ	A	B	Ⓒ	C
90%以上	80%以上	79~50%	49%以下	30%以下

観点別評価	評定
AAA	5or4
AAB	4
ABB	4or3
BBB・BBC	3
BCC	2
CCC	1or2

# 社会科シラバス

## 1. 教科の目標

- ・地理的分野 日本や世界の国々の特色を調べ、考察する力を身につける。
- ・歴史的分野 歴史の流れを知り、日本の文化や伝統を大切にすると国際協調の精神を養う。
- ・公民的分野 現代社会のしくみや状況を学び、広い視野から未来を考えられる資質を養う。

## 2. 学習内容

1学年	地理的分野	世界と日本の姿 ～ 世界のさまざまな地域
	歴史的分野	古代までの日本 ～ 中世の日本
2学年	地理的分野	日本のすがた ～ 日本の諸地域
	歴史的分野	ヨーロッパ人との出会いと全国統一 ～ 明治維新
3学年	歴史的分野	日清・日露戦争と近代産業 ～ 新たな時代の日本と世界
	公民的分野	わたしたちの生活と現代社会 ～ よりよい社会をめざして

※2年生は社会 A(地理)と社会 B(歴史)で進めています。

## 3. 評価の方法

### ①授業における教師の観察等による確認

- ・毎時間の授業における忘れ物や着席、授業の準備状況を確認しています。
- ・毎時間の授業における発言状況を確認しています。
- ・発言内容や振り返りなどから主体的に学習に取り組む態度を確認しています。
- ・授業への参加態度から主体的に学習に取り組む態度を確認しています。
- ・発言内容や振り返りから知識・技能や社会的な思考力・判断力・表現力について確認しています。

### ②提出物による確認

- ・提出物の内容や提出状況により主体的に学習に取り組む態度を確認しています。
- ・提出物の内容から知識・技能を確認しています。
- ・提出物の内容から社会的な思考・判断・表現について確認しています。

### ③定期テスト等における確認

- ・テストの達成状況により、下記の点を確認しています。

○単元に対する主体的に学習に取り組む態度

○単元における社会的な思考・判断・表現

○単元における知識・技能

## 4. 評定について

3の評価方法をもとに、以下の3つの観点について、それぞれA・B・Cの3段階で評価します。

この評価をもとに、5段階で評定します。

**観点** ①主体的に学習に取り組む態度 ②社会的な思考・判断・表現 ③知識・技能

**評定の例**

AAA	5	AAA,AAB,ABB など	4
ABB,BBB,BCC など	3	BCC,CCC など	2
CCC	1		

# 数 学

## 1. 教科の目標

数量、図形などに関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力・判断力・表現力を身につける。

数学の良さを知り、数学と実社会との関連について理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとするなど、数学的に考える資質・能力を身につける。

## 2. 学習内容

1学年		
	学習内容	学習のねらい
1 学 期	正の数・負の数	数の範囲を拡張して、正負の数の四則計算ができるようにする。
	文字の式	文字の式を用いるとともに、そのよさを知り、計算ができるようにする。
2 学 期	方程式	方程式の解き方を理解し、問題解決に利用できるようにする。
	変化と対応	比例・反比例を表・式・グラフでとらえ、問題解決に利用できるようにする。
	平面図形	平面図形について直感的な見方や考え方を深め、基礎的な知識・技能を習得させる。
3 学 期	空間図形	空間図形について直感的な見方や考え方を深め、論理的に考察する能力や、立体の計量についての能力を高める。
	データの活用	目的に応じてデータを収集し、コンピューターを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることができるようにする。  相対度数を計算して、確率が求められるようにする。

2学年		
	学習内容	学習のねらい
1 学 期	式の計算	文字を用いた式の計算ができるとともに、それを活用できるようにする。
	連立方程式	連立方程式を解けるようにし、問題解決に利用できるようにする。
2 学 期	一次関数	一次関数を表・式・グラフでとらえ、問題解決に利用できるようにする。
	図形の調べ方	図形の基本的性質を明らかにし、論証の進め方について理解させる。
	図形の性質と証明	平行線の性質や三角形の合同条件を根拠にして、平行四辺形・円の性質を調べ、活用できるようにする。
3 学 期	場合の数と確率	確率の意味を理解し、簡単な場合についての確率が求められるようにする。
	箱ひげ図とデータの活用	四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解させる。 データを整理し、箱ひげ図で表せるようにする。 データの分布の傾向を比較して読み取ったり批判的に考察し判断できるようにする。

3学年		
	学習内容	学習のねらい
1 学 期	式の展開と因数分解	式の展開、因数分解を理解し、問題解決に利用できるようにする。
	平方根	数の平方根について理解し、根号を含む式の計算ができるようにする。
2 学 期	二次方程式	二次方程式の解き方を理解し、問題解決に利用できるようにする
	関数 $y=ax^2$	$y=ax^2$ の式で表される関数を表・式・グラフでとらえ、問題解決に利用できるようにする。

3学年		
	学習内容	学習のねらい
2 学 期	図形と相似	図形の相似について理解し、図形の性質の理解を深め、計量に活用できるようにする。
3 学 期	円の性質	円周角と中心角の関係を見いだして理解し、表現できるようにする。
	三平方の定理	三平方の定理について理解し、それを活用できるようにする。
	標本調査とデータの活用	母集団から標本を取り出し、標本の傾向を調べることで、それらを活用できるようにする。

### 3. 評価の観点

#### ○知識・技能

- ・数量や図形などについての基礎的な概念や原理法則などを理解している。
- ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。

#### ○思考力・判断力・表現力

- ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表現する力を身につけている。

#### ○主体的に学習に取り組む態度

- ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して、粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。

### 4. 評価の方法

大単元ごとに、(1)の具体的な評価方法で観点別学習状況を以下の3段階で評価します。

A「十分満足できる」 B「おおむね満足できる」 C「努力を要する」

#### (1)具体的な評価方法

観点別学習状況 \ 主な評価の内容、方法	授業における生徒の活動	授業における教師の観察	ノートや提出物、自己評価シート	定期テスト
知識・技能	○	○	○	◎
思考力・判断力・表現力	○	○	○	◎
主体的に学習に取り組む態度	◎	◎	◎	○

○は重視する方法、◎は特に重視する方法を表す。

#### ①授業における生徒の活動による評価

数学の知識や技能、思考力、判断力、表現力などを総合的に評価します。

#### ②授業における観察による評価

発表、机間指導などの機会を通して、主体的に学習に取り組む態度や学習意欲を評価します。

#### ③ノート、提出物、自己評価シートなどによる評価

問題を解決する際の自分の考えや方法、途中の過程がしっかりと表現されているか、授業中ノートをしっかりとっているかなどを評価します。また、自己評価シートなどの振り返りを通して、思考力や問題解決の過程を考え振り返ることができるかなどを評価します。

#### ④定期テストによる評価

小テスト、章のまとめテスト、定期テストから数学的な見方・考え方、表現・処理、知識・理解などを総合的に評価します。

#### (2)総括的な評価

- ・観点別学習状況の評価を集計し、その累計などをもとに5段階で評価します。

たとえば、3つの観点AAAならば5、BBBならば3

CCCならば1

などとなります。

- ・生徒一人一人の見方や考え方のよさ、進歩の状況などを総合的に考慮していきます。

# 第1学年 理科 シラバス

## 【学習目標】

- 身近な植物について観察・実験を行い、生物の調べ方の基礎や表現する能力を身に付ける。植物や動物のからだのつくり、種類やその生活を理解し、科学的な見方、考え方を養わせる。
- 身の回りの物質について観察・実験を行い、物質の性質や変化のようすを調べる方法や表現する能力を身に付ける。また、固体・液体・気体の性質、物質の状態変化について理解し、科学的な見方、考え方を養わせる。
- 身近な物理現象（光、音、力）について観察・実験を行い、その技能や表現する能力を身に付ける。また、光や音の規則性、力の性質を理解し、科学的な見方、考え方を養わせる。
- 大地の活動の様子や身近な地形、地層、岩石などの観察を行い、その技能や表現する能力を身に付ける。地表に見られる事物・現象を大地の変化と関連づけてみる見方、考え方を養わせる。

## 【学習内容】

学習内容	学習のねらい
<b>いろいろな生物とその共通点</b> 1章 植物の特徴と分類 2章 動物の特徴分類	○生物とそれを取りまく自然の学習における心構え、授業中の望ましい態度、教科の構成について理解する。 ○観察器具の操作・記録から生物実験の方法を身に付ける。 ○観察に基づいて、植物をからだのつくりで分類できるようにする。 ○体のつくりや子の生まれ方等から、動物をそれぞれのなかまに分類することができる。
<b>身のまわりの物質</b> 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質 3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化	○身のまわりの物質の性質（密度、電気の通りやすさ、加熱時の変化の様子など）を調べ、物質固有の性質と共通の性質があることを理解できるようにする。 ○実験・記録を行い、化学実験における方法を身に付ける。 ○身の回りの物質について、問題を見出し、見通しをもって観察・実験を行い、物質の性質の規則性や粒子の運動について理解できるようにする。
<b>音・光・力による現象</b> 1章 光による現象 2章 音による現象 3章 力による現象	○光の実験で、境界面での反射や屈折の規則性を理解できるようにする。 ○音の高さや大きさは音源の震動の仕方に関係することを理解できるようにする。 ○力がはたらくと物体が形変したり、運動の様子が変化したりすることについて理解できるようにする。
<b>活きている地球</b> 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 4章 語る大地	○火山の形、活動の様子、噴出物を調べ、マグマの性質との関連について理解できる。 ○地層の成り立ちについて堆積物などを理解することができる。 ○地震の体験や記録から、揺れの伝わり方と大きさの規則性について理解できる。 ○地震の原因と地球内部の関係、地震による土地の変動について理解することができる。

## 【評価の観点】

- 主体的に学習に取り組む態度 → 各項目に対する興味・関心が高い。
- 思考・判断・表現 → 観察・実験の結果を考察して、自分の考えを導き、表現することができる。
- 知識・技能 → 各項目の現象や用語を理解し、観察・実験の技能を身に付けている。

## 第2 学年 理科 シラバス

### 【学習目標】

1. 化学変化（化合、分解）について観察・実験を行い、化学変化のしくみを知るとともに、原子・分子の成り立ちについての科学的な見方、考え方を養わせる。
2. 身近な動物についての観察・実験を通して、動植物のからだのつくりとはたらきを理解し、科学的な見方や考え方を養わせる。
3. 気象変化について、観察・実験を行い、技能や表現する能力を身に付けるようにする。天気とその変化を理解し、科学的な見方や考え方を養わせる。
4. 電気回路についての観察・実験を通して、電流と電圧との関係、電流のはたらきについて理解し、科学的な見方や考え方を養わせる。

### 【学習内容】

学習内容	学習のねらい
<b>化学変化と原子・分子</b>	
1章 物質の成り立ち	○物質は原子・分子からできていることを知り、原子の記号で表すことができるようにする。
2章 物質の表し方	○原子や分子をモデルなど使って説明できるようにする。
3章 さまざまな化学変化	○化学変化を化学反応式で表せるようにする。
4章 化学変化と物質の質量	○化学変化と熱の関係について理解できるようにする。
<b>生物の体のつくりとはたらき</b>	
1章 生物の体をつくるもの	○生物と細胞について理解できるようにする。
2章 植物の体のつくりとはたらき	○植物の根・茎・葉のつくりとはたらきについて実験や観察の結果から理解できるようにする。
3章 動物の体のつくりとはたらき	○消化や呼吸、血液循環、不要な物質の排出について、実験や観察の結果から理解できるようにする。
4章 動物の行動のしくみ	○動物のしくみや感覚器官について理解できるようにする。
<b>地球の大気と天気の変化</b>	
1章 地球を取り巻く大気の様子	○気象観測の観測方法や記録のしかたを身に付ける。
2章 大気中の水の変化	○霧や雲の発生のしかたを理解できるようにする。
3章 天気の変化と大気の動き	○前線の性質と、通過にともなう天気の変動についての関係を説明できるようにする。
4章 大気の動きと日本の四季	○日本の気象について理解できるようにする。
<b>電流とその利用</b>	
1章 電流の性質	○回路の電流や電圧についての規則性を理解できる。
2章 電流の正体	○オームの法則を理解し、計算問題を解けるようにする。
3章 電流と磁界	○電流から熱や光を取り出すことができ、電力の量によって違いがあることを理解できるようにする。
	○電流と磁界について関連することを理解できるようにする。

### 【評価の観点】

- (1) 主体的に学習に取り組む態度 → 各項目に対する興味・関心が高い。
- (2) 思考・判断・表現 → 観察・実験の結果を考察して、自分の考えを導き、表現することができる。
- (3) 知識・技能 → 各項目の現象や用語を理解し、観察・実験の技能を身に付けている。



## 第3 学年 理科 シラバス

### 【学習目標】

1. 細胞と生殖について、観察・実験を行い、その技能や表現する能力を身につけ、生物の細胞と生殖を理解し、科学的な見方、考え方を養わせる。
2. 天体の観測を行い、その技能や表現する能力を身につけ、地球と宇宙について理解し、科学的な見方、考え方を養わせる。
3. 化学変化とイオンについて、観察・実験を行い、その技能や表現する能力を身につけ、イオンについての規則性や原理を理解し、科学的な見方、考え方を養わせる。
4. 物理的な事柄、現象について、観察・実験を行い、その技能や表現する能力を身につけ、運動とエネルギーについての規則性などを理解し、科学的な見方、考え方を養わせる。
5. 生物と自然に関心を持ち、その中の問題を見つけ、解決する方法を身に付けるようにする。

### 【学習内容】

学習内容	学習のねらい
<b>生命の連続性</b>	
1章 生物のふえ方と成長	○細胞分裂の観察を行い、生物の成長と関連づけて考えることができるようにする。
2章 遺伝の規則性と遺伝子	○有性生殖と無性生殖の違いと遺伝について理解できるようにする。
3章 生物の種類の多様性と進化	○生物のつくりの特徴から進化について理解する。
<b>地球を観る</b>	
1章 地球から宇宙へ	○日周運動の観察記録を地球の自転と関連づけて捉えられるようにする。
2章 太陽と恒星の動き	○四季の星座、昼夜の長さ、太陽高度の変化などの観察記録から、地球の公転、地軸の傾きと関連づけて考えられるようにする。
3章 月と金星の動きと見え方	○太陽、恒星、惑星の観察結果や資料により、太陽の特徴を見つけだし、恒星、惑星の特徴を理解できるようにする。
<b>化学変化とイオン</b>	
1章 水溶液とイオン	○電流を流す水溶液と電流を流さない水溶液は何が違うのかイオンを用いて理解できるようにする。
2章 電池とイオン	○電池の原理を実験の結果と関連付けて理解できるようにする。
3章 酸・アルカリと塩	○酸性やアルカリ性の水溶液の持つ性質をみつけることができるようにする。
<b>運動とエネルギー</b>	
1章 力の合成と分解	○浮力と力の合成や分解を通して、力のはたらきを理解する。
2章 物体の運動	○力がはたらく運動と力がはたらかない運動について、実験を行い、速さの変化がある運動と変化のない運動の法則を導き出す。
3章 仕事とエネルギー	○仕事について理解し、仕事を計算から導き出す。
4章 多様なエネルギーとその移り変わり	○人間が利用しているエネルギーには、水力、火力、原子力など様々な物がある
5章 エネルギー資源とその利用	ことを知り、エネルギーの有効利用が大切であることを理解する。
<b>自然と人間</b>	
1章 自然界のつり合い	○微生物のはたらきを調べ、自然界では植物、動物、微生物などがつり合いを保って生活していることを理解できるようにする。
2章 さまざまな物資の利用と人間	○自然環境は自然界のつり合いの上に成り立っていることを理解し、自然環境を守ることが重要であることを理解できるようにする。
3章 科学技術の発展	
4章 人間と環境	○科学技術の進歩により、生活が豊かになったことを知り、環境のことを考えた
5章 持続可能な社会めざして	科学技術の発展が必要であることを理解できるようにする。

### 【評価の観点】

- (1) 主体的に学習に取り組む態度 → 各項目に対する興味・関心が高い。
- (2) 思考・判断・表現 → 観察・実験の結果を考察して、自分の考えを導き、表現することができる。
- (3) 知識・技能 → 各項目の現象や用語を理解し、観察・実験の技能を身に付けている。

## 英語

### 1 英語科の目標

中学校での英語学習は、次の大きな目標を立てて、学習指導をしています。「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」

### 2 評価の3つの観点 および 観点別評価内容

評価の観点	方法	評価内容等
知識・技能	パフォーマンステスト	パフォーマンス課題における英語使用の正確さ
	ワークシート	言語活動で使用したワークシートへの記述内容
	活動観察	言語活動での英語使用の正確さ
	ペーパーテスト	英語使用の正確さを評価する問題
思考・判断・表現	パフォーマンステスト	パフォーマンス課題で設定された目的や場面、状況等での、英語使用における内容面の適切さ
	ワークシート	言語活動で使用したワークシートへの記述内容（内容の適切さ）
	活動観察	言語活動での英語使用における内容の適切さ
	ペーパーテスト	英語使用における内容の適切さを評価する問題
主体的に学習に取り組む態度	パフォーマンステスト	課題解決等に取り組む態度
	振り返りカード	記述内容の分析（粘り強い取組や自己調整の様子、取組の変容など）
	ポートフォリオ	言語活動の記録から生徒の変容を分析
	活動観察	言語活動においてよりよく伝えようとする工夫等、相手への配慮の様子、振り返りの記述内容が活動への取組に表出している様子
	ワークシート	言語活動で使用したワークシートへの記述内容

### 3 評価の方法

この観点ごとの評価は、一斉テスト、授業中の発表、観察、インタビューテスト、パフォーマンステスト、英作文、提出物などの結果を、それぞれABCで評価します。

A	： 十分満足できると判断されるもの	（目標達成率 80%以上）
B	： おおむね満足できると判断されるもの	（目標達成率 40～80%）
C	： 努力を要すると判断されるもの	（目標達成率 40%以下）

観点別の評価を総合して、その学期（年度）の5段階評価を出します。

〔5段階評定の定義から考えられるテストの平均点と5段階評定の目安〕		
「十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの」	90点～	→ 5
「十分満足できると判断されるもの」	75点～ 89点	→ 4
「おおむね満足できるもの」	40点～ 74点	→ 3
「努力を要すると判断できるもの」	10点～ 39点	→ 2
「一層努力を要する判断できるもの」	0点～ 9点	→ 1
基本的に本校の「5段階評定の算出の方法」にしたがいます。 具体的には、右の観点別評定の組み合わせが5段階評定の数字になります。	・ AAA	→ 5
	・ AAA、AAB、AAC、ABB	→ 4
	・ AAC、ABB、ABC、ACC、BBB、BBC	→ 3
	・ ACC、BBC、BCC、CCC	→ 2
	・ CCC	→ 1

# 音楽科

## 学習内容・学習目標

表現（歌唱、器楽、創作）や鑑賞の活動を通して、様々な音楽に親しみを感じたり、美しいものを追求したりします。単に、表現の技術や知識を身に付けることが目的ではなく、授業で身に付けたことを通して、生活を明るく豊かなものにすることが音楽科の目標です。

## 評価

観点	評価方法
<b>【知識・技能】</b> ・楽曲の背景や構造と、曲想の関わりについて理解しているか。 ・音楽表現をするために必要な技能を身に付けているか。	<input type="checkbox"/> 実技テスト <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 期末テスト
<b>【思考・判断・表現】</b> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、どのように表すかについて思いや意図をもっているか。 ・音楽を形づくっている要素を知覚し、音楽のよさや美しさを味わって聴いているか。	<input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 期末テスト
<b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしているか。	<input type="checkbox"/> 学習活動に取り組む態度 <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 実技テスト

※期末テストは、毎学期あります。（時間は30分）

## 観点別評価の基準

- A 「十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの」
- B+ 「十分満足できるもの」
- B 「おおむね（だいたい）満足できるもの」
- B- 「努力を要するもの」
- C 「より一層の努力を要するもの」

※細かい点数表に関しては、基本的に、三芳中学校の定める点数表を参照します。

# 三芳中学校「美術」シラバス

## 第1学年

### 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ③ 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

### 評価の観点・方法

#### 〈評定を決める3つの観点〉

- ①知識及び技能
- ②思考力、判断力、表現力等
- ③学びに向かう力、人間性等

AAA 5or4	AAB 4
AAC 4or3	ABB 4or3
ABC 3	ACC 3or2
BBB 3	BBC 3or2
BCC 2	CCC 2or1

※教育的配慮により、この限りでない場合があります。

#### 〈これらの観点を評価する資料〉

- ①について
  - ・アイデアスケッチ ・プリント
  - ・定期テスト・完成作品
- ②について
  - ・完成作品
  - ・アイデアスケッチ・作品カード
  - ・プリント・定期テスト
- ③について
  - ・授業中の観察・アイデアスケッチ
  - ・プリント・自己評価カード
  - ・完成作品・提出物・定期テスト

※場合により、単元・教材を変更することがあります。

	学習内容	学習のねらい
4	<b>オリエンテーション</b> <b>色彩についての基礎学習</b> <b>文字について</b>	・学習意欲を育てる。 ・色の性質やアクリルガッシュ絵具の塗り方、混色の基礎を学び、表現の幅を広げる (色の特徴・三原色の混色・グラデーション)
5	<b>色の名刺を作ろう</b>	・色の学習を生かし、自分らしくデザインし、表現することの楽しさを感じる。
6		
7	<b>もし名画が…だったら</b> (夏休み課題)	・名画をよく見て実際にやってみることで思考力、判断力表現力をつける。 ・写真での表現を身近にする。 ・名画の鑑賞。 ・作者の思い、自分や友の見方、感じ方を味わい、鑑賞を楽しむ姿勢を身に着ける。
9		
10	<b>鉛筆デッサン</b>	・観察し、デッサンする力をつけ、美術に対する自信をつける。 ・鉛筆での表現技法を学び、質感や立体感を意識して表現する。 ※鉛筆を削る技術の習得
11	<b>手ぬぐいのデザイン</b>	・身近なものをデザインすることにより、より豊かな生活を送るためにデザインを工夫し、いづれも機能性を考える力をつける。 ※カッターナイフの使い方の習得 ※シルクスクリーンの技法の習得
12		
1	<b>木製ボールペンの制作</b> P 4 6、4 7、5 8	・機能性、装飾性を兼ねた作品作りをし、木材の特性を理解し、木を大切に扱い、安全に配慮し丁寧に仕上げる。 ※電動のこぎり、ドリルの使い方の習得 ※紙やすりの使い方の習得
2		
3	<b>遠近法</b> 一点透視図法・二点透視図法	・遠近法を学ぶことで、絵画への関心と理解を深める。 ※透視図法の描き方の習得

# 三芳中学校「美術」シラバス

## 第2学年

### 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ③ 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

### 評価の観点・方法

#### 〈評定を決める3つの観点〉

- ①知識及び技能
- ②思考力、判断力、表現力等
- ③学びに向かう力、人間性等

AAA 5or4	AAB 4
AAC 4or3	ABB 4or3
ABC 3	ACC 3or2
BBB 3	BBC 3or2
BCC 2	CCC 2or1

※教育的配慮により、この限りでない場合があります。

#### 〈これらの観点を評価する資料〉

- ①について
  - ・アイデアスケッチ ・プリント
  - ・定期テスト・完成作品
- ②について
  - ・完成作品
  - ・アイデアスケッチ・作品カード
  - ・プリント・定期テスト
- ③について
  - ・授業中の観察・アイデアスケッチ
  - ・プリント・自己評価カード
  - ・完成作品・提出物・定期テスト

※場合により、単元・教材を変更することがあります。

	学習内容	学習のねらい
4	<b>オリエンテーション</b> <b>配色の工夫について</b> <b>日本の美意識について</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習意欲を育てる。</li> <li>・ 配色の工夫を学び、作品や普段の生活に生かす。</li> </ul>
5	<b>うちわのデザイン</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の色彩の豊かさを学び、色彩感覚を高める。</li> </ul>
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の美意識と配色の工夫を取り入れたデザインを考えることで表現力をつける。</li> </ul>
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイディアスケッチ、画面構成、色彩を工夫して日本の伝統美とオリジナリティの併せ持ったうちわを制作する。</li> </ul>
9	<b>不思議な世界現る</b> 夏休み課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちょっとした工夫やこだわり、発想で、面白い作品ができることから、工夫する大切さを学び、美術を愛好する心情を育てる。</li> <li>・ 写真での表現を身近にする。</li> <li>・ 作者の思い、自分や友の見方、感じ方を味わい、鑑賞を楽しむ姿勢を身に着ける。</li> </ul>
10		
11	<b>立体造形</b> 粘土で動物を作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 粘土特性を理解し、手触りやかたまりを意識して立体に表す体験を楽しむ。</li> <li>・ 写真やスケッチをもとに平面から立体へ形をつくることにより想像力を高める。</li> </ul>
12		
1	<b>コラージュ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心にある感情やイメージを視覚化し、細密な点描で、より深く内面を表現し、根気強く制作する姿勢を培う。</li> </ul>
2	<b>静物着彩</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※空想画の発想法の習得</li> <li>※コラージュ技法の習得</li> </ul>
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>じっくりと対象物を観察し、美しさや面白さを発見できる力をつける。</li> <li>※絵の具の使い方の習得 (混色・重ね塗り)</li> </ul>
	<b>パッケージデザイン</b> <b>の鑑賞</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品の良さや特徴を的確に伝える言葉、魅力的なパッケージの装飾に接し、工夫や良さを味わい身近なデザインの良さや工夫を味わう。</li> </ul>

# 三芳中学校「美術」シラバス

## 第3学年

### 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ③ 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

### 評価の観点・方法

#### 〈評定を決める3つの観点〉

- ①知識及び技能
- ②思考力、判断力、表現力等
- ③学びに向かう力、人間性等

AAA 5or4	AAB 4
AAC 4or3	ABB 4or3
ABC 3	ACC 3or2
BBB 3	BBC 3or2
BCC 2	CCC 2or1

※教育的配慮により、この限りでない場合があります。

#### 〈これらの観点を評価する資料〉

- ①について
  - ・アイデアスケッチ ・プリント
  - ・定期テスト・完成作品
- ②について
  - ・完成作品
  - ・アイデアスケッチ・作品カード
  - ・プリント・定期テスト
- ③について
  - ・授業中の観察・アイデアスケッチ
  - ・プリント・自己評価カード
  - ・完成作品・提出物・定期テスト

※場合により、単元・教材を変更することがあります。

	学習内容	学習のねらい
4	オリエンテーション 石の彫塑	・学習意欲を育てる。 ・石の手触りやかたまりを意識してイメージを形に表す体験を楽しむ。
5		・最後まで粘り強くやすりがけをし愛着のわく作品に仕上げる。
6	アニメーション作品	・シンプルなコマ撮りアニメーションをつくることによって子どもたちの想像を促し、自分たちの世界を表現する楽しさを実感する。
7	ことわざ写真にしたら	・ちょっとした工夫やこだわり、発想で、面白い作品ができることから、工夫する大切さを学び、美術を愛好する心情を育てる。
9		・ことわざの意味を踏まえて。写真でどう表現するか発想・構想する力をつける。
10	自画像	・写真での表現を身近にする。
11		・自分の顔をじっくりと観察し、自己との対話をする中で、今の自分を励ます手紙を書くような気持ちで自分をみつめ、表現する。
12		
1	金属加工	・物づくりの楽しさと手作りの良さを味わい記念品を作る。
2	絵手紙	・絵と字のバランスよく配置した構図を考え、構成力を養う。 ・文字や絵、色や形を工夫し気持ちを表現する力をつける。
3		

# 保 健 体 育

## 1、評価の目的

三芳中学校保健体育の授業では、下記の評価項目を重視し、単元の学習内容を踏まえ、特性を理解し、「心と身体の一体化」を意識し、バランスのとれた運動能力及び体力の向上、仲間と共に自他を大切にした協働による授業を推進していく。

## 2、評価の観点及び評価項目(例)

観 点	評 価 項 目
運動に関する知識および技能	・定期テスト(学期末3回) ・学習カード記述内容。提出物の提出状況 ・実技記録および結果等の実績 等
運動に関する思考・判断・表現	・定期テスト(文章記述問題にて) ・学習カード記述内容。提出物の提出状況 等
主体的に学習に取り組む態度	・授業参加日数(出席日数、見学、忘れ物等) ・運動に適した服装 望ましい態度 ・行動の状況 仲間との協力性 リーダーシップ等 ・声の大きさや自ら動こうとする意識 等

## 3、評価の方法

学習内容(単元)ごとに、上記3観点を評価する。

評価の算出方法は、埼玉県教委が定める「望ましい評価の在り方」を参考に、三芳中学校の観点別評価を踏襲し、評価する。

学期末において、その学期の全ての学習内容(単元)の観点別評価を合算し、下記の表通りに評定を算出する。

### 観点別評価の3基準

A 「十分満足できる」

B 「おおむね(だいたい)満足できる」

C 「努力を要する」

この3つで観点を評価する。

○上記、観点別評価のABCを以下の5段階で数値化し、合計点を合算する。

5 十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの

4 十分満足できるもの

3 おおむね(だいたい)満足できるもの

2 努力を要するもの

1 より一層の努力を要するもの

<細かい点数表に関しては、三芳中学校の定める点数表を参照>

## 技術・家庭科シラバス(技術分野)

### 1. 技術分野の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それにかかわる技能を身に着け、技術と生活や社会、環境との関りについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

### 2. 学習内容 ※1・2年生は前後期制

	1年生	2年生	3年生
1学期		<ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み</li> <li>○エネルギー変換の技術による問題解決（電気製品の製作）</li> <li>○社会の発展とエネルギー変換の技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の技術の原理・法則と仕組み</li> <li>○計測・制御のプログラミングによる問題解決</li> </ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○材料と加工の技術の原理・法則と仕組み</li> <li>○生物育成の技術の原理・法則と仕組み</li> <li>○生物育成の技術による問題解決</li> <li>○社会の発展と生物育成の技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の技術の原理・法則と仕組み</li> <li>○双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計測・制御のプログラミングによる問題解決</li> </ul>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○材料と加工の技術による問題解決（木材加工による製作）</li> <li>○社会の発展と材料と加工の技術</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○計測・制御のプログラミングによる問題解決</li> <li>○社会の発展と情報の技術</li> </ul>

※感染症拡大防止の観点や授業の進行状況等により、単元・教材を変更することがあります。

### 3. 評価・評定の方法について

#### (1) 評価の3つの観点

知識及び技能	・テスト ・製作した作品（作業工程も含む）
思考力、判断力、表現力	・テスト ・授業の課題
主体的に学習に取り組む態度	・授業の振り返り ・題材（課題）への振り返り 等

#### (2) 評価・評定の決まり方（評価の観点を総合して以下の割合で評定）

- A： 非常に満足できると判断されるもの。 （目標達成率 80%以上）  
 B： 十分満足できると判断されるもの （目標達成率 40～80%ぐらい）  
 C： 努力を要すると判断されるもの （目標達成率 40%以下）

→観点別の評価を総合して、その学期（年度）の5段階評価を出します。

5段階評定（評価をもとに数値化を行いその合計した値で評定を定める）

数 値 A○：5点 A：4点 B：3点 C○：2点 C：1点

評 定 5：15～14点 4：13～11点 3：10～8点 2：7～5点 1：4～3点

※ただし、教育的配慮や授業への参加状況（欠席が多い場合等）は、この限りではない場合があります。



## 家 庭

技術家庭科の目標（3学年共通）

- 安全に基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる。
- 工夫創造する能力や実践的な態度を育てる。

<1年生>

### 1 一年間の学習内容

1 学期	2 学期（10月中旬頃まで）
○家族・家庭や地域との関わり ・自分の成長を振り返る ・家族の一員としてできることを考えよう ・家庭生活と地域のかかわり ○私たちの衣生活 ・衣服の補修 ・衣服の働き ・衣服の計画的な活用 ・衣服の手入れ ○私たちの住生活 ・住まいの働き ・健康で安全な住まい ・災害に備えて	○生活に役立つものを作ろう

### 2 評価・評定の方法について

#### (1) 評価の3つの観点

評価の観点	方 法	評価内容等
知識・技能	基礎縫い(手縫い)	丈夫にきれいに、正しい方法で基礎縫いができる。
	作品づくり	製作道具を適切な方法で扱っている。ミシンやアイロンを正しく安全に使用している。丈夫にきれいに作品を作ることができる。
	定期テスト	学習内容を十分に理解している。
思考・判断・表現	振り返り	自分の課題を発見し、課題解決に向けた方法を工夫している。
	ワークシート	学習内容を活用しながら、実生活をよりよくする方法を工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	振り返り	授業で学習したことや、周囲の意見をもとに、自分の今後の学習や生活での実践に活かそうとしている。
	ワークシート	自分の考えや、自分の生活や経験を振り返る具体的な記述がされている。

#### (2) 評価・評定の決まり方（評価の観点を総合して以下の割合で評定）

- A：** 非常に満足できると判断されるもの。 （目標達成率 80%以上）  
 （例えば、提出物で言えば100%の提出率）
- B：** 十分満足できると判断されるもの （目標達成率 40～80%ぐらい）
- C：** 努力を要すると判断されるもの （目標達成率 40%以下）  
 →観点別の評価を総合して、その学期（年度）の5段階評価を出します。

#### 5段階評定（評価をもとに数値化を行いその合計した値で評定を定める）

数 値	A○：5点	A：4点	B：3点	C○：2点	C：1点
評 定	5：15～14点    4：13～11点    3：10～8点 2：7～5点    1：4～3点				

< 2年生 >

1 一年間の学習内容

2 学期 (10 月中旬頃より)	3 学期
○健康と食生活 ・食事の役割について考える ・生活習慣と食事 ・中学生に必要な栄養素 ・食品と栄養素 ・食事の計画 ○食品の選択と保存 ・生鮮食品と加工食品 ・食品の表示 ・食品の選択・購入と保存 ・食品の安全と情報	○調理をしよう ・調理の計画 ・調理の基本 ・肉の調理 ・魚の調理 ・野菜の調理 ○地域の食材と食文化 ・地域の食材と郷土料理 ・受け継がれる食文化 ○家族・家庭と子どもの成長 ・幼児の心身の発達 ・幼児の生活と遊び ・幼児とのふれ合い

2 評価・評定の方法について

(1) 評価の3つの観点

評価の観点	方法	評価内容等
知識・技能	調理実習	包丁やガスコンロを正しく安全に扱うことができる。魚や肉を衛生面に気をつけながら調理することができる。
	保育実習	幼児と仲良く、安全に関わる方法を実践することができる(理解している)。
	定期テスト	学習内容を十分に理解している。
思考・判断・表現	あしあとカード	自分の課題を発見し、課題解決に向けた方法を工夫している。
	ワークシート	学習内容を活用しながら、実生活をよりよくする方法を工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	あしあとカード	授業で学習したことや、周囲の意見をもとに、自分の今後の学習や生活での実践に活かそうとしている。
	ワークシート	自分の考えや、自分の生活や経験を振り返る具体的な記述がされている。

(2) 評価・評定の決まり方 (評価の観点を総合して以下の割合で評定)

- A** : 非常に満足できると判断されるもの。 (目標達成率 80%以上)  
 (例えば、提出物で言えば100%の提出率)
- B** : 十分満足できると判断されるもの (目標達成率 40~80%ぐらい)
- C** : 努力を要すると判断されるもの (目標達成率 40%以下)  
 →観点別の評価を総合して、その学期(年度)の5段階評価を出します。

5段階評定 (評価をもとに数値化を行いその合計した値で評定を定める)

数 値	A○ : 5点	A : 4点	B : 3点	C○ : 2点	C : 1点
評 定	5 : 15~14点		4 : 13~11点	3 : 10~8点	
			2 : 7~5点	1 : 4~3点	

< 3年生 >

1 一年間の学習内容

1 学期	2 学期	3 学期
○私たちの住生活 ・住まいの働き ・健康で安全な住まい ・災害に備えて ○家族・家庭と子どもの成長 ・幼児の心身の発達 ・幼児の生活と遊び	○身近な消費生活と環境 ・いろいろな購入方法・支払い方法 ・消費生活のトラブル ・消費者の権利と責任 ・環境に配慮した消費生活 ○家族・家庭と子どもの成長 ・幼児とのふれ合い	○資源や環境に配慮した布を用いた製作

※定期テストは1・2学期期末テスト時に実施をする。

2 評価・評定の方法について

(1) 評価の3つの観点

評価の観点	方法	評価内容等
知識・技能	作品づくり	製作道具を適切な方法で扱っている。ミシンやアイロンを正しく安全に使用している。丈夫にきれいに作品を作ることができる。
	定期テスト	学習内容を十分に理解している。
思考・判断・表現	振り返り	自分の課題を発見し、課題解決に向けた方法を工夫している。
	ワークシート	学習内容を活用しながら、実生活をよりよくする方法を工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	振り返り	授業で学習したことや、周囲の意見をもとに、自分の今後の学習や生活での実践に活かそうとしている。
	ワークシート	自分の考えや、自分の生活や経験を振り返る具体的な記述がされている。

(2) 評価・評定の決まり方 (評価の観点を総合して以下の割合で評定)

- A** : 非常に満足できると判断されるもの。 (目標達成率 80%以上)  
 (例えば、提出物で言えば100%の提出率)
- B** : 十分満足できると判断されるもの (目標達成率 40~80%ぐらい)
- C** : 努力を要すると判断されるもの (目標達成率 40%以下)  
 → 観点別の評価を総合して、その学期(年度)の5段階評価を出します。

5段階評定 (評価をもとに数値化を行いその合計した値で評定を定める)

数 値	A○ : 5点	A : 4点	B : 3点	C○ : 2点	C : 1点
評 定	5 : 15~14点		4 : 13~11点	3 : 10~8点	
	2 : 7~5点		1 : 4~3点		

